

地吹雪で誘導灯点灯

低風速でも安定発電

新年度販売開始 低コスト、普及期待

弘大など装置開発

弘前大学北日本新エネルギー研究所は、防雪柵などを製造販売する日本パワーツェンター(金沢市)などと共同で、地吹雪などで生じる風力を活用した視線誘導装置を開発。県内第1号となる同装置を21日、黒石市の県産業技術センター農林総合研究所出入り口に設置した。地吹雪という新エネルギーを活用したもので、低風速でも安定した電力が得られ、風が強くなるにつれて明るさが増すのが特徴。北国ならではの吹雪時の安全走行に役立つものと期待されている。



風力発電設備(右上)からの電力で緑色に点滅する誘導灯

開発したのは防雪柵などに小型の風力発電設備を取り付け、発光ダイオード(LED)を使った誘導灯を動作させる装置。一つの風力発電設備から五つの誘導灯を動作させることができる。

弘大の南條宏肇学長特別補佐が開発した、効率的に風車を回転させる新理論「ローテーションフロー型」を用い、日本パワーツェンターが装置を手掛けた。発電機の製作は黒石市のUNOが担当した。昨冬実施した五所川原市の津軽自動車道などでの実証実験結果が

ら、LEDの数や誘導灯のカバーなどを改善

拉致事件めぐり田原氏発言訴訟 取材テープ提出認めず

大阪高裁

北朝鮮による拉致被害者有本恵子さんの両親が、ジャーナリスト田原総一朗氏(76)の発言で精神的苦痛を受けたとして慰謝料を求めた訴訟の即時抗告審で、大阪高裁は21日までに、田原氏側に外務省幹部への取材テープを提出するよう命じた

し、両親側の文書提出命令申し立てを却下した。決定は20日付。安原清蔵裁判長は、

最高裁決定を引用する形で「取材源の秘密は職業の秘密に当たる」と指摘。「テープには特定につながる可能性

外務省幹部の音声、言い回し、周囲の音などが録音され、取材源の特定につながる可能性

し、最大時では信号機よりも明るいと感じるほど光が強く見えるよう改良を加えた。発電部分は直径40センチ、高さ73センチの円柱型。最大の特徴である風車は、風速1メートルで回転、風速2メートルで誘導灯が点灯する仕組みで、低風速で安定した電力を得られ、全方向からの風向きに対応。風速8メートル以上では最も明るく点滅し、強風時でも回転数が必要以上に上

がりにくい構造。アルミ製のため軽量で、音も静かだという。21日は、県産業技術センター農林総合研究所出入り口の両側に1基ずつ同装置をサイン灯として設置。南條学長特別補佐は「風車と発電機の能力の最適化により電力を有効に取り出せるようになった。風車は一般的に大きい方が効率が良いという概念があるが、小型で分散した方がコスト

現在、装置は北海道、秋田県、山形県など全国9カ所で試験的に設置されており、新年度には販売を開始する予定。

が重要提出し、普及に期待を寄せた。また、日本パワーツェンターの高橋誠専務取締役営業本部長は「物理的要因がない限り最低10年間、メンテナンスなしで使うことができる」とコスト面でも胸を張った。

球一周完走



秘な提